

平成28年度 第3回 富田林市総合計画フォローアップ会議 会議録概要

- ◆日 時：平成28年10月6日（木）（14：00～17：00）
- ◆場 所：富田林市役所 5階 政策推進課会議室
- ◆出席者：吉川委員（座長）、大西委員、前川委員、湯口委員
事務局：渡部、塚本

発言者	発言概要
事務局	<p>■委員の全員出席により会議が成立していることを報告。</p> <p>■傍聴人の確認 ⇒傍聴人なし。</p> <p>～座長による議事進行～</p>
座長	<p>■フォローアップ会議の総括について それでは、前回に引き続き、フォローアップ会議として「新たな総合ビジョン」に継承したい・継承すべきと考えるポイントを整理していきたい。</p>
委員	<p>まず、フォローアップ会議を続けていくことが出来たことについて評価したいし、市にも敬意を表したい。また、こうした取組みが今後も続いていくことに期待をしたい。</p> <p>第4次総合計画冊子に立ち戻ると、基本計画の答申の中に書かれたメッセージは、今も今後も職員に大事にしてほしいと感じる。</p> <p>市民参加の3つのしくみづくりを通じて、人権の実現に取り組んできたが、10年間やってきて、その中で気付いたことを総合ビジョンにも活かしてほしい。</p> <p>過去の報告書を振り返ると、平成21年度では「評価のあり方」「会議のあり方」を議論したが、その結果、十分ではないかもしれないが、資料の蓄積や見える化を進めてくることができた。平成22年度では「話し合いの場の制度化」が議論されたが、今後においては住民自治基本条例なども検討する必要があると感じる。平成24年度ではフォローアップシートなどの「フィードバックのしくみ」を議論したが、資料の蓄積を職員・市民が有効活用できるようにしていくことが、今後必要ではと感じている。平成26年度では行財政改革を進めていくうえでの「コスト意識を持ちすぎることの弊害」についても提言しており、第2回会議でも伝えたように、こうした視点も持ってほしいと感じている。</p> <p>平成26年度と平成27年度の会議では、担当課との意見交換の場を持つことが出来て、フォローアップ委員としての気づきの観点からも、有意義なものであったと感じている。通常市民参加というと、審議会等に参画してもらい、意見を言ってもらいたいというイメージを持ちがちだが、業務の実践の中で、職員が日々市民と関わる場面こそ、市民参加の場・職員の市民意識理解の場とも言え、PDCAサイクルのC（評価）の部分にもあたるとは感じていないかと感じている。また、こうした市民とのやりとり</p>

	<p>は、通常業務に従事している職員の経験の蓄積にしかならないが、これを全庁的に整理・分析していくことが出来れば、A（改善）やP（計画）に繋がるのではないかと考える。</p> <p>また、総合ビジョンの策定過程で、市民ワークショップを実施したことは、これまでの取組みの反映とも言えるが、今後はこうした機会を通じて、プレイヤーとしての市民の発掘や育成、活用を促していくことが重要であり、地域を良くしたいという熱い想いと冷静な判断を併せ持つ人材を育てていかなければならないと感じる。そのためにも、フィードバックのしくみの構築を継続することや、市民参加のしくみづくりの発展的な継承が必要である。</p> <p>また、今後のまちづくりにおいては、地方の小さなまちにこそヒントがあるように感じている。富田林市には山並みもあり、近代的なまちの要素もあり、都市部と地方の中間的な位置づけのように感じる。今後総合ビジョンに基づき施策を進めていくうえで、国の方針に振り回されるのではなく、必死に頑張っている地方のまちの取組みに目を向けつつ、富田林市としてどう進めていくのかということを考えることが有効と考える。</p> <p>委員 平成26年度と平成27年度に担当課との意見交換を行うことができたが、双方の気づきを促す観点からも、こうした機会をもっと早く作ることができれば良かったと感じている。今後に向けては、こうした機会が継続されれば、双方にとっての気づきが促され、まちづくりにおいてもプラスに働くのではと考える。</p> <p>また、審議会等への市民参加においては、情報が不足していると、意見表明をすることが難しい側面があるように感じる。</p> <p>座長 参加のしやすさという点で言うと、必要な情報の提供や公開を、アクセス性を含めて充実させるということなのかもしれないが、会議において、意見を伺うというスタンスに課題があるのかもしれない。</p> <p>委員 会議において、双方が率直に意見を表明するためにも、話し合いのルールが必要とも考える。</p> <p>また、市民参加のしくみづくりを進めていくうえで、市民と職員がともに育っていくという視点が重要だと感じている。</p> <p>委員 追加の意見となるが、総合計画というものに、市民も職員も関心をもってもらいたいと感じている。</p> <p>委員 フォローアップ会議に関われたことで、様々な資料を目にすることができたが、この場以外でも役立つ面もあり、情報公開はされているが、こうした資料を市民が目にする機会が増えれば、それぞれの市民にとっても有益となるのではと感じている。</p> <p>～休憩～</p>
--	--

座長	<p>第4次総合計画では、市民参加のしくみづくりをスローガンとして掲げ、取組みを進めてきたが、課題もあることから、その理念を継承しながら、より具体的に取組みを深めてほしいと考えている。</p> <p>第4次総合計画の基本計画答申の中で記載した「市民自治の必然性」の中で、市民は「地域の社会サービスを担う主体として不可欠」と位置付けており、これは、これまでのように、行政のみが社会サービスを担っていくことは、社会経済情勢的にも困難になってきていることから、職員もそうした状況を理解し、意識を変えていかなければならない、ということの意味している。こうした「市民が主体」という考え方は、総合ビジョンにおいても、ますます重要になるものとする。</p> <p>また、各委員からの意見を聞いて感じたことではあるが、「市民も育っていかなければならない」という考え方は、我々フォローアップ会議でなければ言えないことではないかと感じている。</p> <p>さらに、報告書の中ではPDCAについても言及したいと考えているが、一般的にどの組織であっても、P（計画）・D（実行）までは行うが、C（評価）・A（改善）への取組みが課題となっている。C（評価）を進めていくうえでは、計画の策定主体が行うと、自己評価としての気づきの促進には繋がるが、第三者的な立場の者が行うほうが有効に作用するという考え方もある。そういった意味では、フォローアップ会議としての取組みは有効であったと考えられ、手法を提示するつもりはないが、こうした取組みを継続していくことの重要性については伝えていきたい。</p>
座長	<p>■今年度の報告書について</p> <p>各委員から意見を出していただけたので、報告書のまとめ方についても議論しておきたい。</p> <p>大きな章立てとしては、基本計画第1章・第2章の進捗状況の点検結果と、フォローアップ会議として継承したい・継承すべきポイントをまとめた総括結果を記載するような形になると思う。</p> <p>各委員からも意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>今年度の会議で話題にもなった第4次総合計画の基本計画答申の記載も意識した形でまとめていくのが良いのではないかと。また、基本計画第1章・第2章の進捗状況の点検結果の部分では細かな点検結果を記載するという形ではなく、大きな視点で書いていくのが良いと考える。フォローアップ会議の総括の部分では、成果として気づきが深まってきたことや資料が蓄積されてきたことなども記載するのが良い。また、それを今後においても引き継いで進めてほしいということも伝えていきたい。</p>
座長	<p>時間の都合もあるため、本会議での議論はここまでとしたいが、市長報告までのスケジュール案について事務局から願います。</p>
事務局	<p>今年度の会議内容をもとに報告書案を作成し、10月19日（水）頃を目途に全委員へ送付させていただくので、10月24日（月）までに事務局までご意見をいただきたい。それらを反映した報告書最終案を市長報告会までにお渡しするよう形で進</p>

座長	<p>めさせていただきたい。</p> <p>事務局から説明のあった日程で、報告書案に関する意見を必ず事務局までフィードバックしていただきたい。それを受けての報告書最終案については、私のほうで事務局と調整したいと考えるが、一任いただけるか。</p> <p>(各委員了承)</p> <p>次回の日程確認をして終了。 (第4回は、11月2日(水) 12:30~5階政策推進課内会議室で行う。) ※市長報告は 13:00~</p>
----	---